

エゾモモンガ

Pteromys volans orii

リス科

名前の由来

北海道(エゾ)に生息するモモンガ。ムササビの事を毛皮の美しさから「毛美(もみ)」といい、モモンガはこの「モミ」から、「モモ」となり、鳴き声の「グァ」または「ガ」が加わったとのだ言われている。漢字名：蝦夷小飛鼠



エゾモモンガ

形態的特徴

頭胴長(鼻先から尻尾の付け根まで)15~16cm、尾長10~12cm、体重100g前後。目が大きく、尾は扁平。前後の肢の

間に飛膜がある。夏毛では背面が淡い茶褐色、冬毛では淡い灰褐色。腹は白色。類似種：なし。

生息環境・分布

森林境に生息。

分布：エゾモモンガはタイリクモモンガの亜種[※]。国外では、タイリクモモンガがユーラシア北部全域に広く分布する。

国内では、北海道に分布。北海道内では、全域に分布。十勝地方では、平地や山間部の森林に生息する。市街地の残存林などにも生息している。

※ 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

食性・他生物との関わり

樹木の葉、芽、樹皮、果実、キノコなどを食べる。

天敵はタカ・フクロウ類、エゾクロテン、ネコなど。

繁殖生態・寿命

1~2回出産し、1回目の交尾期は2月下旬から3月上旬頃、2回目は6月中旬から7月上旬頃。出産は4月中旬~5月上旬と7月下旬~8月中旬で、一度

に2~6頭を産む。約60日で母親から独立する。寿命は飼育下では3~5年。野外では3年以上はまれである。

興味深い話

■夜行性で、樹上生活をしている。巣やねぐらは樹洞を利用するので見つけるのが難しい。巣箱を利用する事もある。前肢と後肢の間に飛膜があり、木から木へと滑空し、地面に下りることは殆どない。

■ほとんど鳴くことは無いが、交尾期には「ジジジ、ジジジ、・・・」と小さな声で鳴く事がある。

■子どもは巣から出されて1頭で床の上などに置かれると、成獣によく似た低い声で「ジュクジュク」と鳴くという。

■エゾモモンガはタイリクモモンガの亜種。タイリクモモ

ンガはユーラシア北部全域に広く分布する。本州以南に生息するニホンモモンガは日本固有種で、エゾモモンガとは別種。

■十勝地方のアイヌ語では「フーニ」「アッ」という。

■モモンガがあたかも小児のような声で鳴くことから、幼子をあやし子守をする神の「アッ」「アッポウ」「アッ・カムイ」などと呼んだ。地方によっては「イフンケ・カムイ=子守歌の神」とも呼んだという。モモンガの鳴き声が子守歌によく似ているからだといわれる。

配慮事項

山間部を除いて、平野部などでは樹林が孤立している。広い樹林があれば良いが、それほど大きくない樹林でも、防

風林や河畔林などで連続していることで正常な繁殖や分散が可能になると考えられる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期	■											
交尾期		■				■						
出産期				■				■				

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「動物名の由来」中村浩 東京書籍 1981
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997

「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ